

一 般 演 題

1. 男性ホルモン併用 ^{32}P 治療, その後の検討

窪田 昭男 伊藤 和夫
 多田 明 小林 眞
 利波 紀久 久田 欣一
 (金大・核医学)
 渡辺 紀昭
 (徳島大・放)

前立腺癌, 乳癌の痛性骨転移に対する男性ホルモン併用 ^{32}P 療法に関しては, 既に本学会で報告し, その有効性, 骨スキャン像の改善・造血機能への影響について述べた。

今回更に肺癌膀胱癌前立腺癌の症例を加え治療効果について検討した。乳癌前立腺癌では著明な疼痛寛解を認めたが, 軟部組織転移のある肺癌, 膀胱癌では効果は明らかではなかった。

前立腺癌の1例及び膀胱癌について ^{32}P の尿中排泄量を測定した。 ^{32}P 投与10日以内に膀胱癌では全投与量の13.7%, 前立腺癌では1.7%の尿中排泄を見た。

又, 骨スキャンに於いて, 治療前に faintrenal image を併う多発性異常 RI 集積が治療後ほぼ正常な腎イメージ及び異常 RI 集積の著明な低下を示して症例について報告した。骨転移膀胱癌のスキャンの改善は余り著明でなかった。

2. R.I. 投与患者の R.I. 病室への収容基準 (その14)

^{131}I 投与患者のその呼気, 汗, 唾液中の

^{131}I 濃度の測定

○小原 健 西沢 邦彦
 大島 総男
 (名大・放)
 前越 久 折戸 武郎
 (名大・放技校)
 渡辺 令
 (名古屋鉄道病院・放)

^{131}I 投与患者の R.I. 特別病室への収容基準を求

める為, 甲状腺機能亢進症の患者5例, 甲状腺ガンの患者1例について, 汗, 呼気, 唾液中の ^{131}I の量のモニタリングを行った。

前者への投与量は 2 mCi 1例, 3 mCi 2例, 4 mCi 1例, 5 mCi 1例で後者へは 50 mCi であった。

汗の採取は手より CaCl_2 を塗付した汚紙によって行い, 更にその部分のスミアによって R.I. をあつめた。呼気は, 活性炭汚紙によって一時間患者の呼気中の ^{131}I をあつめた。

モニタリングの結果, 汗中の ^{131}I の濃度は血中濃度に対し 1/100 のオーダーで, 投与量に対しては, 最大 $10^{-6}\text{g}\cdot\text{hr}^{-1}$ のオーダーにあり, 呼気は $10^{-6}\sim 10^{-7}\text{hr}^{-1}$ のオーダーであった。

唾液は血中濃度に対し $10^1\sim 10^2$ のオーダーであり, 投与量に対しては最大で 10^{-3}ml^{-1} のオーダーであった。

3. RI 投与患者の RI 病室への収容基準 (その15) ^{131}I 投与患者のリネン, 什器類のモニタリング及び環境物質への沈着の測定

折戸 武郎 前越 久
 (名大・放技校)
 西沢 邦秀 小原 健
 大島 総男
 (名大・放)
 渡辺 令
 (名古屋鉄道病院・放)

^{131}I 50 mCi 投与した患者のシーツ, エリカパー, 体軀幹清拭タオル, 下着, 歯ブラシ, 什器類についてモニタリングを行った。投与後, 第9日目までモニタリングを行ったが, この期間中, 投与量に対する Activity はシーツ, エリカパーは $10^{-5}\sim 10^{-7}$, 清拭タオル, 什器類は $10^{-4}\sim 10^{-7}$, 下着は $10^{-4}\sim 10^{-6}$, 歯ブラシは $10^{-3}\sim 10^{-6}$ 倍であることがわかった。環境物質としてベッド周辺